

ゲスト杉村太蔵氏を迎えて、唐戸について熱く語る

# 、唐戸が面白い。



前田 晋太郎

杉村 太蔵

梶原 康弘

下関市長 株式会社 ここはれて 代表取締役社長 赤間本通り商店街振興組合 理事長 元衆議院議員 一般社団法人からまち 副代表理事

**市長** 皆さん、明けましておめでとうございます。令和7年の新春を健やかに迎えのとお喜びを申し上げます。本日は、タレントそして実業家の杉村太蔵さんをお迎えして、唐戸の今とこれからについて、お話を伺いたいと思っています。唐戸エリアには、カモン

ワーフ、唐戸市場があり、そして、いよいよ今秋には星野リゾートの「リゾナーレ下関」が完成します。海響館もリニューアルして新しいアシカの繁殖展示施設ができます。これから唐戸をどう盛り上げていくか、ということをお話の中心にしたいと思います。

## 唐戸はれて横丁

**市長** 唐戸はれて横丁(以下「横丁」)が昨年スタートしました。物価高など、さまざまなハードルがありました。開業にこぎ着けていただき改めて感謝を申し上げます。まだまだ課題はあると思いますが、スタートして1年がたつ今、どのように受け止めていますか？

**杉村** 私は率直に「やってよかったです」と本当に思います。ただ、当然のことながら、課題もあります。こういった事業は、農業と似ている、今は種を植えた段階です。北海道のアスパラは、植えてから収穫を迎えるまで2、3年かかります。まちづくりは、人づくりである。2、3年かけて完成形を目指したいと思っています。そのためにもっとできることはないかというようなことを、今日は議論させていただければと思います。

**市長** 横丁の開業がニュースなどで取り上げられて話題になりましたが、そのまま登り続けてほしいと思う一方で、そんなに簡単でもないだろうと思っていました。人

を育てるには時間が必要ですから、腰を据えてしっかりと育ててほしいと思いますし、我々も応援していかなくてはならないと思います。もっと盛り上がっていくように、今日はいいいアイデアが生まれる一日にしたいですね。

## からまち

**市長** 横丁の開業準備と時期を同じくして立ち上げたまちづくり組織が、一般社団法人からまち(以下「からまち」)でしたね。

**寺尾** 唐戸の商店街は、施設の老朽化や郊外型の大型ショッピングモールなどの競合など、いろいろな時代の流れの中で解散の危機に直面していました。そこから覚悟を決めて、複数ある組織を一つにまとめていくことにしました。唐戸を次世代につなぐという思いで、みんなで作った会社が「からまち」です。

**市長** 当時、横丁がやってくるという中で、従来の唐戸商店街とどうつなぐか、唐戸の人たちとどうつなぐか、つなぎの役割を意識したと思うのですが、実際立ち上げてみてどうですか？

新春座談会



野村 泰三 東部自治連合会 会長  
寺尾 文彦 一般社団法人からまち 代表理事  
一般社団法人からまち 理事

**梶原** 立ち上げて良かったと思っ  
ています。街の思いが一つになり  
ました。そして、行政への発信が  
できたり、民間主導で何かやる時  
にまとまりができました。唐戸の街  
も変わらなければ…というタイミ  
ングでしたし、杉村さんに後押し  
をしていただいた感じですよ。そ  
ろ手を入れていかないといいけ  
ないと思っていた古い建物が建ち並  
ぶエリアを、一気に壊して、テコ  
入れていただきました。横丁と  
して生まれ変わって、亀山八幡宮の  
足元がきれいになりました。いいス  
タートの1年になったと思ってい  
ます。



土曜夜市

からまちでは、土曜夜市など、さま  
ざまなイベントを開催している。

**市長** 皆さんが台頭されて、唐戸  
は若返りましたね。杉村さんにも  
来ていただいて、皆さんの気持ち  
も盛り上がって、いい感じの流れ  
が生まれていると思うんですよ。  
野村さんは、市内の自治連合会長  
の中でも最若手で登場したんです  
よね。あれは何年前でしたか？

野村 泰三

寺尾 文彦

**野村** 10年前ですね。確かに一番  
若かったのですが、唐戸で生まれ  
育った者として思いを引き継ぎ、  
前会長に幼い頃から抱っこされて  
育つ中で自分たちの世代がやるし  
かないな、という雰囲気がありま  
した。最初に商店街の会長をやっ  
て、その後に自治連合会長をやっ  
て。10年前からすると、ようやく  
今、少しずつ先が見通せるよう  
になったところです。  
**市長** そうですね。ぜひ、85歳ぐ  
らいまでやってください。(笑)  
**野村** 生きていれば、ですね。  
**市長** ぜひ下関の最長記録を作っ  
てください。  
**なぜ下関に？**  
**市長** いい機会なので杉村さん  
にお聞きしたかったんですが。杉村  
さんが唐戸でやろうと言ってくれ  
た時に「なんで杉村太蔵が下関に  
やってくるんだ？」と聞いてくる  
人がたくさんいたわけですよ。な  
ぜ下関を選んでくれたんですか。  
**杉村** なぜ下関なんだという質問  
を、僕はもう昨年だけで2万回ぐ  
らい聞いたんじゃないかな。  
(一同 爆笑)

**杉村** もちろん下関を選んだ理由  
がありますが、その前に、僕が下  
関の皆さんにお伝えしたいのは、  
多くの方がその質問の背景に「な  
んでうちなんか…」みたいな、そ  
んな言い方なんです。もっと他  
にいい場所があったのでは？ み  
たいな、ちょっとネガティブな出  
発点から私への質問だったんです。  
**市長** うん。うん。  
**杉村** おそらく博多とかだったら、  
そういう質問はこなかったと思う  
んです。僕が下関の市民の皆さん  
にお伝えしたいのは「なんちゅう  
ことを言ってるんですか？」ってこ  
となんです。素晴らしいですよ、  
下関は。関門海峡とか、歴史とか  
ね。食べ物もおいしいし。政府も、  
地方創生は「食と観光だ」と言っ  
ていますし、これらが全部そろっ  
ているのが下関ですから。  
**市長** そうなんですよ。  
**杉村** 下関の皆さんは、下関の魅  
力を分かってないと思うんですよ。

85歳まで  
頑張ります  
(笑)



NOMURA TAIZO

僕は、まず、そういったマインドを払拭はらいつくしたい。これは本当に大きな誤解なので。まだまだこれから伸びるエリアだし、僕は、第一に、下関がすてきだからやって来たんです。もうちょっと自分たちのポテンシャルを信じていただきたいなというのが、まず最初に申し上げたい点。それから、私の地元が北海道の旭川なので、対極的な場所を探していたということです。

**市長** なるほど。

**杉村** 今年の大きな夢は、横丁の出店者を旭川はれて屋台村(以下「屋台村」)※に持っていきたいと思っています。そして、屋台村の出店者を横丁に連れて来たい。こういった地域間交流を、からまちの皆さんと力を合わせて実現したいと。この地域間交流は、これからの地方創生にとって重要なテーマだと思います。異国と言ったら語弊がありますが、唐戸の皆さんからすると、おそらく旭川は台湾や韓国よりも異国だと思います。(笑)

**市長** へえー。

**杉村** なんせ冬はマイナス30度。夏は30度。半年で60度の温度差があつて。道路が50キロ、一つも曲が

ることなく、真つすぐなんですよ。

**市長** おおー。

**杉村** 旭川は、下関の皆さんからすると異国だし、同時に旭川の間からすると、これだけ歴史のある街っていうのは自分たちの文化や価値観を大きく変えてくれると思うし、人づくりという観点から、そういう地域間交流をしたいということ、いくつか私が候補として選定していた中に下関があったんです。最終的な決め手としては、唐戸の皆さんが一番熱心に話を聞いてくれた。市長もすぐに合わないかも大事なんだけど、やっぱりこういう事業は「やりたいか、やりたくないか」。ここが大きいと思います。

**市長** ありがとうございます。いやー、もう下関市民が非常に勇気付けられるコメントを頂きました。ちなみに私は、「下関なんかには全く思っていますよ。」

**杉村** いやいや、そうです。市長は、そうですね！

**市長** うそうそ。今のは笑うところ。(笑) 都会の方が、商売をする上では有利な要素が多いと思



唐戸はれて横丁

ますが、やっぱり自分のポリシーとか、夢とか、いろいろなものを持ち合わせて下関を選んでくれた杉村さんに、僕は本当に感謝をしているし、横丁を起爆剤にして唐戸が元気になってほしいなって、すごく思っています。あとは横丁のお店の人たちが、一期一会で、来店したお客さんを1回の勝負で、次にまた来てもらうためにどうすればいいか、思いを込めて日々お仕事に当たってほしいな、という気持ちですかね。

**わがまち商店街表彰**

**市長** この度、からまちさんが「地域にかがやくわがまち商店街表彰2024」を受賞されました。おめでとうございます。

**寺尾** ありがとうございます。

**市長** 全国の商店街の中でトップ

10に選ばれたんですね。

**杉村** それは、すごい。

**梶原** 全国的に商店街というものが苦境に立たされている中で、サステイナブルな取り組みをしている商店街として評価されました。AIカメラやPOSシステムを活用した来訪者情報の分析から最適な業種業態の店舗展開を進めたり、エリアマップを搭載したアプリを開発したりして、将来にわたって活気のある商店街づくりを目指して活動をしています。杉村さんが言われたように、唐戸には伸びしろがたくさんあると思っています。それらを生かして、伸ばしていく企画をしていく中で、まちづくりの計画として日本トップレベルの計画ができていて、と経済産業大臣から直接褒めていただきました。

**市長** 横丁が下関に来てくれて、みんなが動き出して、それを国が評価をしてくれた。今、非常に良い循環が生み出されていると感じ

唐戸には伸びしろがたくさん!



KAJIHARA YASUHIRO

※旭川はれて屋台村…株式会社ここはれてが運営している唐戸はれて横丁と同じ仕様の旭川市平和通り商店街にある横丁

ています。それを途切らせることのないように、次々にいろいろな仕掛けていきたいなと思っています。小さなイベントでいいと思うんですよ。それを唐戸商店街がPRして、応援してあげたりとかで、いいのではないかなと思います。

**寺尾** せっかく地域連携協定を組んでいるので、そういったイベントもしっかり協力してやっていきたいと思っています。

**今後の展開**

**市長** 杉村さん、今後の計画とか、夢はあるんですか？

**杉村** 新規に別の街で開業する計画は現時点ではありません。将来的には、全国の商店街でやっていきたいという夢はあるんですが。

**市長** そうなんですな。

**杉村** 地方活性化とか、地方創生って、やっぱり商店街の再活性化が大きなポイントだと思っています。商店街の再活性化は、商店街に新規創業者を誕生させることだと考えています。彼らをきちんと育てて、彼らが雇用を生み、ビジネスで成功して、税収が増えること。今、横丁には19店舗入っ

しっかり協力してやっていきます！



TERAO FUMIHIKO

ますけれど、彼ら全員を課税事業者、つまり1000万円超の売り上げのある事業者に育てていくことが、当社の大きな使命だと思っています。税収が増えることによって、再び行政サービスが向上して、また街に人が入ってくる。そういう好循環を作りたい。最初の1年目は、新規創業者をとにかく誕生させました。彼らも少しずつ雇用を生めるようになりました。ただ、すぐ育つアスパラもあれば、全然芽が出ないアスパラもあって、それは個性なので仕方がないんですけれど。育つまでしっかり待つ。待つことが今の僕の仕事なんです。



唐戸はれて横丁

あと、一つ。令和7年は、かなうならば、月1回、唐戸市場、カモンワフ、地元のホテル業界の方、交通インフラ、そして唐戸商店街、横丁の関係者で、定例会議を開催して情報交換をしたい。我々は、チームですので。我々が魅力的であれば、交通インフラだってお客様が増えて収益が出ます。ホテルだって宿泊者が増える。運命共同体としてコンソーシアムを組んで、定例会議で議論して、常に半年後のイベントについて議論する。そういうことができると思えばいいのではと思っています。

**市長** それができたら、いい流れがつかれますね。月1回が難しいければ、短い時間、オンラインでもいいから、情報共有していけば、良いアイデアも生まれるでしょうね。

**杉村** そこに行政の方も入っていただいで。場合によっては商工会議所の方も入っていただく。唐戸地区に関わっている方々で情報交換をして、企画をし、運営していく。もつと横丁にはこういうことをやってもらいたいというリクエストも頂ければ、新しい需要を我々も受け取ることができるので

助かります。

**市長** 旭川は、唐戸より少し早くスタートされていますが、横の連携は進んでいるんでしょうか？

**杉村** 僕は、唐戸に来て、唐戸商店街の皆さんに大変刺激を受けました。どのくらい刺激を受けたかという、僕自身が、この度、旭川の平和通り商店街の理事長になったんですよ。

(一同 笑)

**市長** ええ!? (笑)

**杉村** そう。だから、さっきの表彰の話は、もう本当にすごいなあと、見本のような商店街だなと。だから、僕の目は狂ってなくて、やっぱり唐戸商店街はすごいなと思っただけですよ。

**寺尾** ありがとうございます。

**杉村** 僕は、経済産業大臣よりも早く、唐戸商店街に目をつけたという自分の選球眼のすごさにちょっと驚いているぐらいですよ。

(一同 大爆笑)

**杉村** 旭川は、僕が理事長になりましたので、唐戸商店街で学んだように、これからもいろんなところを巻き込んでやっていきたいと思っています。この間、オリンピ



SUGIMURA TAIZO

商店街の  
再活性化に  
人生懸けて  
ます!

ツク陸上やり投げ金メダリストの北口榛花さんのパレードを地元の商店街でやったんですよ。

**市長** へえー。

**杉村** 彼女、旭川出身なんですよ。そしたら商店街に5万人来たんですよ。

**市長** おおー。

**杉村** 今まで商店街はそういうことをやらなかったんですよ。平和通り商店街史上最多の人数がありました。商店街の可能性をすごく感じました。これから、JRRとか、ジェットスターとか、ホテル、そして市場。そういった横の連携を強化してお互いに情報交換してチーム一丸となってパイを大きくする取り組みを、まさにやっている段階です。

**市長** 杉村理事長ですか？(笑)

**杉村** 元衆議院議員が商店街の理事長に就任したのは初ですから。

(一同 笑)

**市長** 格下げになってない？(笑)

**杉村** 落ちてない。落ちてない。ランクアップですよ、ランクアップ！(笑)

**市長** なんで、理事長をすることになったんですか？

**杉村** 屋台村をやって、新規創業を増やしたくて、地元の方にも本当に協力していただいて。理事長だった方に「僕にやらせてください」と言おうとしたんですね。もしたら、「僕に……」て言う前に「やっていいよ」と言われましたからね。(一同 笑)

(一同 笑)

**杉村** ちょっと食い気味に「どうぞ。どうぞ」でしたから。今、久しぶりに公職に就いて、緊張しているんですよ。

(一同 笑)

**杉村** でも本当にやりがいがあった。この商店街の再活性化っていうのは、自分の人生を懸けて取り組みたい事業です。新規創業者をいかに育てて定着させて大きくさせるかということが、これからの商店街の活性化に非常に関わってくると思っています。

**市長** どういうお店が、期待のお店なんですか？



第1回唐戸はれてのど自慢大会

**杉村** きちんと営業時間を守り、自分なりに試行錯誤している。ダメな時もあるんですよ。お客さんが全然いない時でも、気持ちを明るく持って取り組んでいることですね。

唐戸はれてのど自慢大会

**杉村** 12月7日、私の夢だった第1回唐戸はれてのど自慢大会を開催しました。横丁をやる前から、絶対にやりたいイベントだったんですよ。

**市長** へえー。

**杉村** 横丁みたいな場所では、飲んで、食べて、歌って、踊ってっていうのがすごく大事なんです。

**野村** そうですね。

**杉村** 横丁のコンセプトって、実はアイヌに由来してるんですよ。

**市長** アイヌ？ 北海道の？

**杉村** そうなんです。アイヌの言葉って3000語くらい、今に残っているんですけど、その中に、「孤独」とか「飢餓」という意味の言葉がないんです。厳しい北海道の大自然を生き抜いた、まさにサステイナブルな人々なんです。孤独にさせない仕組みがあって、みんなで火を囲んで、分かち合って食べて、飲んで、そして歌って踊るっていうのが彼らの基本的な文化なんです。アイヌの人たちが一番やってはいけないことは、

子々孫々が困るぐらい資源を取ってしまう、獲物を取ってしまうこと。これが一番の法度なんです。**市長** なるほど。

**杉村** もう一つは、それを独占してしまうこと。だから、横丁で、みんなが集まって、飲んで、歌って、食べて、踊ってと、こういった施設になっていくといいなという思いで、やっているんですよ。**市長** 素晴らしい。**杉村** ちなみに優勝者には賞品があるんですよ。

**市長** それは、どんな？

**杉村** ジェットスターに乗っている、旭川はれて屋台村2泊3日、

食い倒れツアーの豪華賞品です。  
**市長** すごい。それは面白い！  
**杉村** これ、旭川でもやるんです。旭川でやるときは、豪華賞品として、下関・唐戸2泊3日。  
**市長** うわぁ。まさに地域間交流の一本筋が通ってる。  
**杉村** 下関の皆さんにも旭川に行ってもらいたし、旭川の皆さんにも唐戸に来てもらいたしなど。そんなことを考えています。  
**市長** いや、でもね、こうやって杉村さんが活躍して、動いてくれるから、本当に明るいんです。うれしいですね。本当に。  
**杉村** 下関の企業だけでやるのではなくて、僕みたいに他から来る人間を、どう受け入れていくかっていうのは、本当に他の全国の商店街のモデルケースになるんじゃないかなと、僕はそう思いますね。  
**市長** いや、ほんとね。モデルケースになるように、我々も、もっと盛り上げていきたいですよ。でも、今回、すでにモデルケースになっているなあと考えています。  
**杉村** 新規創業者を増やしていくことは、公共政策としても、非常に面白いなあと思っています。



唐戸はれて横丁

**市長** 本当にそうですね。  
**杉村** ただ、これがね、ちょっと一つ誤算があつて。要するに、僕は、すごく成功したい人たちが集まってくると思っていたんですよ。  
**市長** うん。  
**杉村** そのために、1カ月の売り上げ70万円を最低ノルマにしたんです。70万円を下回るということは、手取りで10万円台になっちゃうんです。だったら雇われて働いた方がいいんじゃないかと。  
**市長** そうですね。  
**杉村** でも、案外そうでもなくて。自分の店を持って、好きなお客さんをもてなして、非常に幸福度が高いっちゃうんですよ。(笑)  
**市長** そうなんですか？



MAEDA SHINTARO

**杉村** みんな楽しいと。そんなにもうからないけど。だから、現状では、まだビジネスまで育っていないなと思つています。だから、今年は、ビジネスに昇格させたいっていうのが僕の目標なんです。よ。なんかね「いやー、幸せです」と言われるんですよ。その売り上げで幸せを感じるなって言いたくなるんですよ。(笑)  
**市長** 遠く離れていて、いろいろお忙しいでしょうし、大変だと思えますが、これからもコミュニケーションを取り続けてあげてください。  
**最後に**  
**市長** 最後に、唐戸がこうあってほしいな〜っていう、理想とか、夢とか、ありますか。  
**梶原** 横丁で北海道展をやってくださいよ。旭川から直送でアスパラ、じゃがいも、ホッケとか。大

丸下関店で北海道展が開催されると結構人気なんです。旭川から直送のジャガイモ専門店とかアスパラ専門店がむっちゃ受ける気がするんで。  
**野村** その逆もありますね。旭川で下関の特産を出すとか。  
**杉村** そうなんです。だから、屋台村からこっちに出店してきた者が北海道の専門店をやつたらいいかなと思つてるんですよ。  
**梶原** いいですね。  
**杉村** なので、令和7年、なんとか実現したいと思つていて。  
**寺尾** ぜひ、お願いします。  
**杉村** いいことに、ほら、横丁と屋台村は同じ店舗の設えで、同じルールだから、それがしやすい。  
**市長** ああ、そうか。使い慣れた厨房だから、パツとできるね。  
**梶原** 今年は、ぜひ来ていただきましょう。  
**市長** いいですね。楽しみです。  
**市長** 今日は、本当に忙しい中、ご参加いただきまして、ありがとうございます。今後とも、よろしくお願ひします。  
**一同** ありがとうございます。